

HEADLINE

表

1. 令和最初の文理だより
英語について考える

裏

2. GWの反省を活かし、6月を無駄にしない
3. 1年生のみなさんへ
4. オープンキャンパスのすゝめ

編集後記

Topic1 令和最初の文理だより(英語について考える)

お聞きします。「なぜ、みなさんは英語の勉強をするのですか？」

「大学受験に必ず必要だから。」では、少しもったいないと思いませんか？年号が平成から令和となり、教壇に立つ昭和の人間も少しずつ割合を減らし…。そんな中で、未だにこの問題に答えを見いだせない生徒の多さに愕然としています。絶対的な解答ではないとは思いますが、概ね妥当なものを用意しました。ぜひ、読んでください。

私たちが大学生だった頃の話(1980年代後半)、日本の技術革新は目覚ましく、その礎は間違いなく、外国からの技術流入でした。大学生だった私は、発表される論文から、流れてくるレポートからそれらを得たものでした。もちろん英語で書かれたもので和訳されているものは少なく、誰かの和訳を待つ時間が、その時間こそが後れをとる原因となりました。そのため、研究者は、世界についていくために英語の能力を要求されたのです。このころから、時間勝負、早い者勝ちという競争はありました。

現在ではどうですか？インターネットの環境がスピードアップを推し進め、英語ができる人間が論文のような難解なものでもタイムリーに和訳する。これほどまでに“和訳する”もしくは“英訳する”ことは各個人の能力に依存しなくてもよい状況になっています。実生活においてはもっと顕著で、東京オリンピック・パラリンピックに向けて“翻訳アプリ”が完全に実用可能なレベルになりつつあります。しかも、英語と日本語だけでなく、中国語、ドイツ語、フランス語、韓国語など複数の言語間でのもので、私たちのコミュニケーションツールとして、英語が話せなくても手段を手に入れることができる状況へと世の中は進歩しています(ド〇えもんのほんやくこんにゃくが夢ではなくなったということですね)。

それでも、みなさんは英語の勉強をしています。「させられている」という感覚の人は少なくないはずです。なぜ大人たち、指導者たちは英語を勉強させたがるのでしょうか？

それは、「自分でできることが楽しいから」です。機械に頼らず、外国人と話せることはとても楽しいからです。特に実生活と直接的に結びつく言語は、得られる満足感は数学とは比較にならないかもしれません。と言いながら、私は数学講師として数学の面白さを伝えたいと思いながら教壇には立っていますが…。

閑話休題。例えば、パラリンピックの選手たちの心情を思い描いてみてください。足が不自由でありながら、水泳をしたい、バスケットボールをしたい、という自分の中にある動機で選手にまでなったのです。なぜか、それは「自分でできるならば、やるのが一番楽しい。得られる充実感は何物にも代えがたい」からでしょう。人間どのような状況でも「自分でできるようになることはとても楽しい、嬉しい。」ということを知っているのです。自転車に初めて乗れた瞬間、誰の手も借りず問題を解けた瞬間、思い出せば、経験の中でいくらでもあるのです。ただ、英語は言語です、前号でも伝えた通り言語とは文化です。一朝一夕に理解できたり、コツをつかむことは不可能です。英語ができるようになるためには

① 音読すること ② 聞くこと ③ 使うこと

を毎日毎日取り組まなければなりません。そうして、その繰り返しで自然と身につけるべきものなのです。何気ない友達との会話を英訳したらどうなるんだろう？このように理解してほしい、と思ったらどう言えばよいのだろう？こういった日常の一部分を英語に置き換えることこそ、英語を身につけるための真髄があるように思えてなりません。

世界中で多くの人々が英語以外の母語を持ちながら、英語を話せるように学んでいます。そういった人たちとも接する機会が増えるであろう将来に備えて、皆さんも準備しましょう。それは、日本国内でも日常的に起こりうることです。

みなさんの今後の人生で、何に笑い、何に心打たれるかは、若いころの経験に依ります、若いころの経験にのみ依ります。ぜひ、英語を使い身につけ、人でも状況でも“出会うべき”に出会って欲しいと思います。そして、英語に限らず、何かを通じて「自分でできることはとても楽しい！」ということを実感して欲しいと強く願うばかりです。

GWの過ごし方はどうでしたか？どのような反省が残りましたか？過ぎたことは仕方ありません。反省こそすれ、後悔しても始まらないのですから、その反省を今後に生かしましょう。ということで、まずは反省から。

【反省のポイント】

- ① 学習計画は立てたか？ Yes→②へ No→とても恐ろしい状況です。その校舎の担当の責任も重い。
- ② 計画は実行できたか？ できた・だいたいできた→⑤へ できなかった→③へ
- ③ 計画の立て直しをしたか？ Yes→④へ No→⑤へ
- ④ GWの過ごし方としてとても良かったと思います。6月もその能力を十分に発揮し、計画的に学習しましょう。
- ⑤ 一概には言えませんが、計画が実行できたという生徒のほとんどは、目標の設定が甘すぎます。甘いとは、自分の能力から“かけ離れた計画”を立てた、という意味で、見極めが甘いということです。自分にいつでも少し負荷がかかっている状態が望ましいので、この夏、この反省を活かした計画を立て、実行しましょう。

当然ですが、夏休みはGWよりもはるかに長いのです。無計画に過ごすと、大抵失敗で何も残りません。今回GWで失敗したと思う人は、夏休みに取り返せばよいのです。

そのためには、この6月の過ごし方がとても大切です。では、どのように生活すればよいか？その指標はただ1点。4月、5月の1日の学習時間に比べ、6月のそれが減らない、欲を言えば10～15%増えた状態であるか、です。つまり、6月は最も気が抜ける時期で、学習量が極端に減る時期なのです。この時期、学習時間を減らさない、もしくは少し増やすことができれば、全国のライバルに差をつけることができます。この時期は、何が何でも学習時間量を確保しましょう。

今から9月までの学習計画を立てて、これまでで最も伸びる3か月を送りましょう。

文系理系の選択について

4月の保護者会で触れたテーマだとは思いますが、大きなテーマなのでもう一度取り上げます。

「受験校の決定よりも重要な選択」と言われる文系理系選択ですが、その選択をする前に、どうしても取り組んでほしいことがあります。それは今から2か月間、徹底して苦手科目の克服に当たる、ということです。

例えば、「理数系が得意で理系に進もう」とするならば、何ら問題は生じません。しかし、「理系に進みたいけど、数学は特に苦手」という人は、悩んでしまいます。そのとき考えてほしいことは「この苦手科目は、本当に克服できないのだろうか？」ということです。苦手を克服することは言うほど簡単ではありません。こと勉強において、その克服に2か月以上かかることは当然のことなのです。今から夏休みまで、きちんと取り組んでみてから、本当に苦手なのかどうなのか、判断するとしても遅くはないでしょう。ぜひ、自分の進みたい道をあきらめず、頑張りたいと思います。

前向きな文系理系選択をしましょう！

大学進学に向けて一番難しいのは、その意思をもち続けること、学習意欲を維持して、勉強し続けることです。その大きな手助けとなるのは、大学へのあこがれです。オープンキャンパスは、自分の目で見て、体験することで、その大学自体を今よりも何倍も身近に感じることができます。それはきっと、みなさんの中に居続け、日々の学習にハリを与えてくれるでしょう。よいリフレッシュにもなるようなので、夏休み等の時期を使い、オープンキャンパスに行ってみてはいかがでしょうか？

■ブログには各校舎の情報満載！スケジュール、講師のつぶやき、自分勝手なメッセージ…

校舎ブログをホームページから、チェックして下さい！

■第一志望合格のために、スタッフ一同全力で生徒を応援します。悩みは一人で抱え込まず、せす、何時でも、何でも相談して下さい(生徒のみなさんも、保護者様も)。

新入生募集！

無料体験授業受付中。お友達を紹介してください。

編集後記

先日、とあるテレビ番組で「AIを使う人間になるか？AIに使われる人間になるか？どちらか。」と発言しているのを見て、違和感を覚えました。世の中の価値基準はそれだけではないでしょう。人間ができないことをAIが請け負う、人間にしかできないことを人間がする。これがことAIとの関係では自然と思いました。パートナー、補完関係は上下関係より大切なのです。そういう時代がもう目の前にあるのですね。【い】